

A—61 盲児童生徒の発育・体力及び栄養に関する研究

(7) 学校給食が盲学校寄宿舎食餌の栄養価に及ぼす影響について

東北大 佐藤 徳子

1. 目的：学校給食は児童生徒の体位の向上という眼前の効果を目標とすると共に，これを通して家庭の食生活を少しずつ良い方向へ変えてゆくことも大切な目標であると考えられる。盲学校寄宿舎は主として義務教育中の児童生徒を収容し，その家庭に代って毎日の食生活の責任を負っているが，一般家庭と同様主として経済的理由によりその栄養摂取状態は充分とはいえない状態である。幸いにも国庫補助により週5日の昼食完全給食が実施されており，この事は寄宿舎の食生活にとってプラスになる点が多いと考えられるので，学校給食のある日とない日の栄養摂取状況を検討し，給食の効果の一面を確かめたい。

2. 方法：M県立盲学校寄宿舎食餌について，昭和37年及び昭和38年の夏（9月）と秋（11月）の4期，各期夫々連続10日間ずつの1人1日栄養摂取状況を食品分析表により算出し，その中より給食のある日とない日の栄養摂取状況を比較して給食が食生活内容に及ぼす影響を検討した。

3. 成果：学校給食のある日は熱量，糖質，磷及びナイアシンを除く他の凡ての栄養摂取量が給食のない日より多く，特に動蛋，Ca，P，V.B₁，V.B₂及びV.C等有意差を示し，また油脂の摂取量が有意差で大であり，その他乳，肉及び野菜類等でもやや優っていた。寄宿舎食餌全体を全国平均と比較すると，蛋白，動蛋，脂肪，Ca，V.A及びV.B₂等の栄養素及び豆類，乳，肉及び卵等の食品の摂取量が全国平均を上回り，比較的良好であ

ることは主として学校給食に負うところが大であると考え

える。